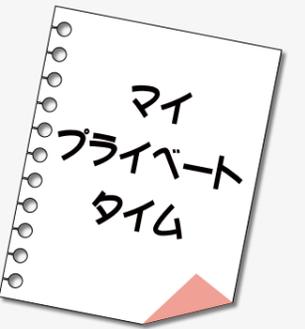


# ふるさとが私の活力・ その活力をふるさとへ

ぶんごたかだ 豊後高田市長(大分県) 永松博文  
Hirohumi Nagamatsu



## はじめに キーワードは、昭和30年代

わが市は「昭和の町・豊後高田市」です。本市は、大分県北部の国東半島(この半島をくにさきと呼びます)の西の付け根に位置する、人口2万5000人弱の小さな市です。

「昭和30年代」の初めまで、10万人の商圏を持つ非常に活気あつた地方都市でしたが、「昭和30年代」後半から急速に衰退し時代の変化についていけず、商店街を中心とした市の中心部は、当時の姿のまま取り残され、まさに氷漬けになつたような姿でした。そんな氷漬け状態の商店街の特色を生かして、平成13年度から町おこしを始めました。

「昭和の町」——商店街が最も華やかで元気があつた「昭和30年代」をテーマとして、その当時の町並みをお金をかけず再現し、観光施策で商店街を復活させる取り組みです。取り組みを始めて9年経過した平成21年には、33万人の観光客が「昭和の町」を訪れるようになり、私の予想をはるかに上回る成果が上がり、商店街が観光客でにぎわう姿に私を含めて市民全体が非常に喜んでいきます。

## 私の活力は、郷土の素晴らしい財産と山の中の家

私の前職は大分県の職員でして、市長

とりこになりました。私の市長としての活力は、郷土の財産といくら忙しくても心を癒やしてくれる山の中の家だと思えます。

休みの日は徒歩、自転車、そして遠くへは自動車を運転し、郷土の素晴らしい財産をくまなく見て回っています。市長へ就任する前、あまり好きでなかったはずの郷土が今ではとても大好きになりました。大好きを超えて誇りに思うようになりました。



職員と政策議論する筆者

として就任した平成10年当時、当時の市長、助役、教育長が任期途中で総辞職という市政大混乱の中、平松守彦大分県知事(当時)から「君の郷土に恩返しすべきである」と説得され、当時あまり好きではなかったふるさとに帰り、初出馬をしました。そんな私が市町村合併前の旧豊後高田市から通算すると、市長として現在4期目を迎えています。

私の市長としての生活は、朝市役所に登庁し、秘書と一日の仕事の打ち合わせ、日中は公式行事への出席、内部での市政に関する方針決定、そして夜帰宅して新たな施策を考える、こんなことで仕事として仕事の毎日です。「行住坐臥の禪」——私はすべての生活において、市長であることを目指しており、私の趣味は仕事です。私は、生まれ育つた古いわが家に妻と2人で生活しています。

市長に初就任し帰郷した折、とりあえず自分の新しい出発は、自分の生家からと思ひ、中心部から約12km離れた「山の中の家」に住むことにしました。就任当時は、議会とうまく行かず、職員が夜遅くになつても私と対応について話し合わねばならない事態が何度もあつたため、職員に申し訳ないと思ひ、市の中心部にある市役所の近くに住もうかと思ひました。が、市政も順調になり、気がつけば「山の中の家」での生活が12年目を迎えようとして

## 千年の時を刻む「田染荘」

そんな懐の深い色々な魅力があるわが市の財産の代表として「田染荘」があります。

田染荘は、全国4万余りの八幡宮の総本宮である宇佐八幡宮の荘園の一つで、最も重要視された荘園です。私が、市長に就任した時、このような歴史的価値がある水田を農地整備してしまうというところで引き継ぎを受けました。集落の位置や水田、そして周囲の景観を荘園当時のまま残してきた田染荘小崎地区を、私の代で無くしてしまうということがとても残念で寂しい気持ちになり、夜遅くまで何度も地元の方たちと話し合いを重ねました。その結果、地元の皆さんの賛同をいただいて、農地整備を行わず、千年の時を刻む水田景観を残すことができたことは、この上ない喜びでした。

あれから10年が経過した現在、田染荘小崎を国重要文化的景観にする申出を行つています。重要文化的景観に選定されるということは、これまでは市の財産であつた田染荘も「国の財産」になるという事です。

平成20年、皇太子殿下にここ田染荘にお見えいただいた際、現地をご案内させていただきましたことも、とてもありがたい思い出の一つです。



ボンネットバスも復活した「昭和の町」

さて、本市は、昭和の町で中心市街地の活性化を図りましたが、市全体に目を向けてみますと、大自然に囲まれきれいで透き通るような空気が、素晴らしい岩肌と緑の景色、そして六郷満山文化由縁の国宝富貴寺大堂など、どこに行っても石像やお寺のある数多くの素晴らしい財産を持つています。

私は、市長としての職務と自然に囲まれた「山の中の家」での生活を通じて、この小さな郷土が持つ景色と歴史「財産の

## ふるさとが私の活力・その活力をふるさとへ

子どものころ、これまで述べてきた郷土の素晴らしいさを知らされてなかった私は、市長として触れることができた郷土の素晴らしいさを、今の子どもたちに一生懸命教えていきます。

ふるさとが私に活力を与え、そしてふるさとからいただいた活力をふるさとの振興へ——地域主権社会への転換が求められている時代の中、今後もうこうしたふるさとの良さを生かした市政振興策を推進していきます。



平安・鎌倉時代の田園風景を今に残す「田染荘」